

摂行洗礼

※(緊急時に、信徒が司祭に代わって執行する洗礼式。未信徒は不可。)

※(清浄な容器に水を入れ、新約聖書と領洗者に与えられる十字架を側に置き、蠟燭に点灯し、乳香を焚いて、祭壇の前に立ち、祈禱する。但し、時間に余裕のない場合は、水を用意したら直ちに、「領洗式文」を読みながら、ハッキリと聖名を呼び、三回「アミン」と唱える度に聖水を濯いで洗礼を授け、直ちに神父に連絡する。)

信者

主 イイスス・ハリストス神の子よ、
爾が至浄の母と、諸聖人との祈禱に因りて、我等を憐み給え。アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

主 憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導

かず、猶我等を凶惡より救い給え。
蓋国と権能と光榮は爾に世世に帰す。アミン。

生神女讃詞

生神童貞女や慶べよ、恩寵に満たさるるマリヤや主は爾と偕にす、爾は女の中にて讚美たり、爾の胎の果も讚美たり、爾は我等の靈を救うの主を生めばなり。

福音 (マトフェイ伝二八・二六―二〇)

「彼の時、十一の門徒ガリレヤに往きてイイススの彼等に命ぜし山に至り、彼を見て拝せり。然れども猶疑える者ありき。イイスス就きて、彼等に語つて曰えり、天に在り地に在る一切の権は我に與えられたり。故に爾等往きて、萬民に教を傳えて、彼等に父と子と聖神との名に因りて洗を授け、彼等を教へて、我が一切爾等に命ぜしことを守らしめよ。視よ、我恒に爾等と偕にして世の終末まで在るなり。アミン。」

常に福

常に福にして全く玷なき生神女、吾が神の母なる爾を福なりと称うるは真に当れり、ヘルワイムより尊くセラワイムに並びなく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

※(病人或いは怪我等、急を要する者の側に立ち、或いは座し、容器の水に

右手を浸して、左の式文を聖名を付けて読みながら、「アミン」と唱える度に、領洗者の首に聖水を灌ぎ、洗礼を授ける。)

領洗式文

『神の僕(或いは婢)(某(領洗者の聖名))洗を領く、父「アミン」、及び子「アミン」、及び聖神の名に因りてなり「アミン」。』 (三回)

書札 (ロマ書 六・三―一)

「兄弟よ、我等ハリストス・イイススに於て洗を受けし者は、皆彼の死に於て洗を受けしなり。故に我等は死に於ける洗を以て彼と偕に葬られたり。ハリストスが父の光榮を以て死より復活せし如く、斯く我等も新にせられたる生命を度らん為なり。蓋我等若し彼の死に效うを以て、彼と接合せられしならば、乃ち復活に效うを以ても、接合せらるべし。蓋我等知る、我等の舊き人は彼と偕に釘せられたり。罪の身滅ぼされて、我等復罪の奴とならざらん為なり。死せし者は罪より釈かれしに因る。我等若しハリストスと偕に死せば、則亦彼と偕に生きんことを信ず、蓋知る、ハリストスは死より復活して復死せず。死は復彼に主たらざるを、彼の死せしは罪の為に一次死し、彼の生くるは神の為に生くればなり。是くの如く爾等も、己を以て、ハリストス・イイスス我等の主在りて罪の為に死し、神の為に生くる者と意へ。」

結びの祈り

光榮は父と子と聖神に帰す。今も何時も世世に。アミン。
主イイスス・ハリストス神の子よ、爾が至浄の母と、我が克肖捧神なる神父と、諸聖人との祈祷に因りて、我等を憐み給え。アミン。

※(洗礼式が終つたら、直ちに管轄司祭に連絡し、傅膏機密の事など、事後の指示を必ず仰ぐこと。)